

2011年
12月15日発行
第62号

北九州地区労連

発行：北九州地区労働組合総連合（〒802-0071 北九州市小倉北区黄金町1-4-9 山本ビル207号 TEL 921-0747 FAX 921-0284
ホームページアドレス http://www.geocities.jp/k_roren/ Eメールアドレス k_roren@ybb.ne.jp

北九春闘連絡会・北九州地区労連

「新春旗開き」のご案内
2012年1月11日・水
午後6時30分
小倉リーセントホテル



講演する寺間全労連政策総合局長

12月14日戸畑生涯学習センターで「原発依存でなく自然エネルギーへの転換を！」原子力発電所への対応について全労連の政策提言(案)学習講演会が開かれました。全労連寺間政策総合局長は「原発問題への

原発なくせ なくせる

電力は充分 日本の技術で 全労連初めての原発政策提言

全労連の対応、当面の方針について」と題し一時間半にわたり講演しました。

全労連の反省も踏まえ

全労連も今まで原発への政策はなかった。今回初めて提言案をまとめたとはじめに反省し、論議の経過から話し始めました。

内容は「フクシマ」を世界が注視していることから始まり、①現存する原発の廃止とそのプロセス、②原発からの脱却、自然エネルギーへの転換の道筋、③長時間労働の是正、大量消費、「24時間型社会」の根本的見直し、④原子力行政の在り方について、終わりにディーセントワークの実現をと労働者の立場から、と



昨年の旗びらきオープニング

北九州労健連大会開催
第二十二回定期総会が、十一月二十五日小倉生涯学習センターで開催されました。参加は四十三団体六十五名でした。第一号議案「総括、情勢、方針」が一括採択されました。

まとめました。さすが全労連政策局長だと分かりやすく資料も使い話されました。来る3月11日は全国統一集会を成功させようと結びました。

その後北九州地区労連堀田事務局長より「労働相談からみえる、北九州の労働者の働き方、働かされ方」の題名で、ラブホテルに勤める労働者、J・M・U安川電機の労働者、後藤クリニクスの看護師等のたたかいについて話しました。

見上げてごらん
黄金市場にて
地区労連近くの黄金市場に歳末恒例になっている美萩野女子高校生制作のモザイク画が展示されました。



雨上がり

組合活動を初めて20年になります。少しずつ組合のことがわかってきた中で、昨年から組合本部役員に10数年ぶりに選出され、微力ながら奮闘しています。(そのために地区労連の会議には欠席が多すぎません・・・) 10数年前、私がまだまだ未熟だったせいか、交渉相手の不誠実な態度に気づきもしませんでした。しかし、今は交渉相手に不信感しかありません。

医療の現場で働く私たちが、この春から数回に及びスト、夏の一時金闘争では23年ぶりの4時間ストを決行。交渉の度、「ご理解とご協力を。」を繰り返すトップ。

東日本大震災で被害にあった病院の職員に対して特別休暇を要求した時も、「政府に目を付けられるような特別なことはできない。」と回答。職員は被災者ではないのですか？被災した職員に手を差し伸べて目を付けられるというなら、そんな国に対して抗議してくれるような経営者であってほしい。

ポーンスにしても、マイナスイ回答の数字に怒っているのではありません。政府の動向を恐れ、職員どころか、患者の存在さえも忘れてしまっている態度に怒りさえおぼえます。

医はやはり仁術ではなく、算術というのでしょうか。それでも頑張りしかないと思いを新たにしています。

全労災門司支部
小川真澄

2011年
12月15日発行
第62号

北九州地区労連(裏面)

「2010年代の全労連運動と 組織を語る大集会」に参加して

北九州市職労 大谷 美鈴

11月19日(土)から21日(月)の3日間、静岡県・浜松市で開催された集会に参加しました。

1日目は午後1時からJR浜松駅すぐそばのアクトシティ浜松という最上階は展望台になっている大きな会場で、全体会がありました。

記念講演は、関西大・森岡教授による「働きすぎをなくし経済・環境危機を乗り越える」と題して1時間、パワーポイントを駆使しての講演でした。

過労死・過労自殺が増え、特に若年層が増加している。

若者の雇用形態に変化が生じ、今や15歳から20歳の非正規率は95%と聞き驚きました。

また、就活中の大学生の過労自殺も増加している、何十という会社にトライカードを送り面接にこぎ着けるのに四苦八苦し、面接官からは厳しい指摘をされ傷つき、ボロボロになって死を選ぶ若者達。

景気の悪化だけではなく、政治の責任も重いのではないかと感じました。

休憩を挟んで、これまでの全労連運動の歴史を綴ったビデオ上映が行われ、小田川事務局長より問題提起がされました。

特別報告は3人の方から行われ、宮城県労連の鎌内さんから現状報告がありました。

「宮城県の復興会議を東京で開催し、財界のシンクタンクである野村総研に復興計画プランを丸投げ、瓦礫撤去は大手建設企業に丸投げ、仮設住宅はプレハブ協会に丸投げと「上からの復興の押しつけ」で住民はないがしろにされている。

生活保護受給者には、義援金の受給を収入認定し、不支給とするなど生活していけない状況がある。

また、雇用にしても緊急雇用に基づく事業は700円台の低賃金で、応募者がいない。」など、まさに住民無視の復興計画だと腹だたい思いがしました。

2日目は愛知県労連の吉良さんから「名古屋中小企業の実態調査活動」報告があり、3日目は医労連・東葛分会の森上委員長から「質的組織拡大・強化に向かって」の題名で分会の今日までの取組報告がされました。

「自分が初めて執行委員になって会議に出席して驚いた。

参加者は数名で、年配の先輩ばかり、会議の内容も例年通りで論議もしない。そこで、基礎の学習会からスタートし、そこで質問したり自分の考えを発言したりできる核となる人材を発見することにした。執行委員会も若い人から発言してもらい、職場環境改善など、どうしたら実現できるか話し合う。また、新しい企画や行事を担当させ、実現、成功すればまた新しい企画を考えて来るなど、自分で参加しようという意識が芽生えた。

団体交渉前には、3日間の休暇を取り、朝ビラ配布、昼は職場オルグ、夕方は意見収集して交渉のための資料作成と、まさに命がけでやってきた。おかげで交渉には執行委員全員が参加し、訴え、微力ながら前進を勝ち取ってきた。

自分の考えではあるが、みんなで発言し、みんなで頑張る、言うべきときに言うべきことを言う、言いたいことを言い合って勉強していくことが質的組織拡大だと思う。」と話され、元気をいただきました。

最後にCGT(フランス労働総同盟)のミッシェル・ジュビエ国際局長がヨーロッパの現状と原発問題について語られ「爽り多い討論と集会の成功を願います。」とエールをいただきました。

2日目はそれぞれが選択した分科会・分散会に分かれて1日中討論です。

私は「非正規労働者」の分科会に参加し、63名の出席で始まりました。

みんな各々が抱える問題や課題を出し合い、討論とまではいかないまでも考えられる発言が多かったです。

東京青年ユニオンの書記長から「若者は1週間で仕事をいくつも変わる。そんな働き方、働らせ方をしている若者を受け入れてくれる労働組合がありましたか？」と聞かれ、「そうだな、たいがいは企業内労働組合だもんな。」と考えさせられました。

また、エフコープ生協の配送を担当している青年は「個人請負の契約で、父親が死んでも休暇を取るなら、『違約金を支払って。』と言われ、賃金を上げてほしいと言うと、『別の配送を2件行ってくれたら20万円になるよ。』と言われた。今でも朝6時から20時まで働いているのに、過労死しろと言うのか！」と怒りをぶつけていました。

1日目・2日目ともに宿泊は浜名湖ロイヤルホテルでした。

1日目は交流会と称し、九州で参加しているメンバー全員が1つのテーブルに集い情報交換しました。

最終日はシンポジウムで、パネラー3人と助言者で進めて行きました。

始めに、助言者である渡辺治先生の「2つの国民的経験が提起した労働運動の課題」というテーマで講演がありました。

「政権交代と東日本大震災という人生でめったに経験することが無いような出来事に遭遇し、何をすべきかが見えてきた。

①08年の「年越し派遣村」のような流れを作り、財界主導の動きを変える。②地方自治を変え、国政を変えていく。

③選挙制度を学び、国の民主的あり方を問うていく。④様々な要求、職場闘争、地域での闘争など、青年・女性・非正規をつなぐ役割を担う。これが全労連の進む方向性だと思う。

政治が変われば政策も変わる。」と力強く話されました。

フロア発言も女性、青年、ベテランと数多く出され、その中で青年が「今回全国の仲間と交流できてよかった。なかなか機会が無く、思いを語れず悶々としてきましたが、みんな共通の熱い思いを持っていることが分かり最高。青年のいない組合は潰れます。」と発言があり、頼もしく羨ましくもありました。

今回、本当に良い勉強をさせていただき、ありがとうございました。全国の仲間は、いろいろな困難を抱えながらも、明るく頼もしく、自らの考えで動き、組織拡大に頑張っていること。仲間がいて、繋がって、団結して前進していくことが大事ということを実感した3日間でした。

